

四国支所

四国支所研究調整官 加藤 正樹

四国支所では、平成13年4月に従来の4研究室体制から、「森林生態系変動研究グループ」と「流域森林保全研究グループ」の2研究グループに再編されるとともに、「複層林生態管理」及び「源流域森林管理」担当の2チーム長と研究調整官が置かれました。

四国支所は、高知市の西端に近い朝倉地区の高台に位置しています。支所構内での最近10年間の年平均気温は16.7℃、年平均降水量は2,546mmで、降水量は東京の約2倍あります。四国の年降水量は、瀬戸内沿いに1,000mm程度の地域もありますが、中央部や太平洋側の山地では3,000mm以上、一部には4,000mmを超える地域が見られます。

このように、四国の森林地域の多くは温暖ですが豪雨頻度が高く、しかも急傾斜地が多い自然環境下にあります。また、スギ・ヒノキを中心とした人工林率が非常に高い反面、山間部では過疎化や高齢化が著しく進み、持続的な森林管理を行う上で大きな問題となっています。中期計画では、こうした四国地域の森林や林業が抱える問題を解決するため、研究項目「豪雨・急傾斜地環境下における森林の機能を持続的に発揮させる管理手法の開発」を四国支所が中心となって推進しています。この研究項目には、以下の2実行課題を設定し、それぞれチーム長を責任者として研究を推進しています。

実行課題「急峻山岳林における立地環境特性の解析と複層林への導入のための森林生態系変動予測技術の高度化」では、複層林の持つ環境保全的機能を効果的に発揮させるため、立地環境特性の解析や複層林の導入・管理手法、森林生態系の変動予測技術について研究を行っています。

実行課題「高度に人工林化された河川流域における地域森林資源の実態解明」では、持続可能な森林管理への市民の積極的な関与を進めるため、四万十川流域をモデルとして、森林資源の分布や利用実態、生物多様性等、地域の森林に関する情報を収集・分析して公開するための手法を研究しています。

四国支所では、これらの他に流域森林保全研究グループ長を責任者とする実行課題「高精細センサーによる森林情報抽出技術の高度化」等、本所または他支所との連携の下に、約20の実行課題に参画して精力的に研究を推進しています。

四国は、各自治体、住民ともに、森林や自然環境、林業や木材産業に非常に関心の高い地域です。そのため、四国支所では「四国情報」誌の発行、「出前講座」の企画、「標本展示館」の整備等を通じて、分かりやすい研究成果の普及、広報に努めています。この他、地域の行政機関や試験研究機関、大学、民間団体等との連携、協力を図って研究を推進しています。